



読書活動への扉を開く！

No. R6-4

桑村小学校 令和6年5月16日 文責：関口 直

一生の間に何冊の本と出会えるのだろうか？

「世界一やさしい読書習慣定着メソッド」 印南敦史著



読書活動が盛んな桑村小に赴任したので、図書館で見つけた上記の本が目にとまりました。どうしたら読書習慣が身に付くのか。書かれていたのは、以下のようなことでした。

- ・読書は自分のためのものだ。 ・自分らしい読み方 ・無理をしない。
- ・空いた時間を上手に利用する。 ・読書はつまらないという意識を捨てる。
- ・無駄なマストから自由になる。無駄なマストとは、全てを理解する、速読する。
- ・100の中から価値ある1%を見つける。

桑村小でもすすめているエンジョイ読書が大事だと著者は言います。肩肘張らずに本を読むことそのものを楽しむことが、読書を習慣化するポイントのようです。また、読み始めたけど分からない本や面白さを感じない本は、全部読む必要はないとも言っています。

考えてみると私たちは、一生にどのくらいの本が読めるのでしょうか。一週間に一冊ずつ本を読むとすると1年間で50冊、10年で500冊。50年で2500冊です。とすると私たちは一生の間に5000冊読めばかなり読んだことになります。ちなみに函南町立図書館の一般書は、全部で102000冊。児童書だけでも33500冊あります。つまり、函南の図書館の本を全部読むことは一生かかってもできないということになります。

（総務省の統計によると1年間に約70000冊の本が出版されているそうで、1ヶ月にすると6000冊、1日だと約200冊だそうです。自分は1ヶ月で出版される本すらこれまでの人生で読めていないことになります。）このようなことを踏まえると、自分と合わない本とするずるお付き合いするなんてかなりもったいない気がします。いろいろな本をどんどん読んでいくことで、自分に合った本や人生を変えるような本にも出会えるのだと思います。買うとなると全部読まなければ損だと思ってしまいますが、図書館から借りればお金はかかりません。

そして、何より大事なことは、いつ、どのタイミングで出会うかということです。気持ちが落ち込んでいるときだからこそ受け入れられた本、恋愛しているときだからこそ感動できた本など、タイミングがずれていたら、心に残らず通り過ぎてしまう本もあります。何か、人と人との出会いや別れと一緒にですね。

人と人との出会いと言えば、最近はマッチングアプリなどというものが流行っているようです。本についてはマッチングアプリは聞いたことがありませんが、誰かにすすめられたり、周りの人たちがどんな本を読んだりしているのかは、大きく影響します。幸いなことに、家庭に世界文学全集が揃っていなければ良書と出会えないなんて事は今はありません。図書館というみんなの貴重な財産があるからです。だからこそ、我々大人は、子供にどんな本を読むかを強制するのではなく、どんな本に興味をもってもそれを受け入れ、応えられるような環境を用意すること、また、学校図書館や町立図書館などにいけば、多くの本と出会えるという楽しさを教えてあげることが大事な責務になると思います。函南町は町をあげて読書をすすめています。桑村小も読書活動推進リーダーを中心にエンジョイ読書をすすめています。どうか子供たちの感性豊かな育ちを支えるためにそんな取り組みへのご理解とご協力をよろしくお願いします。